

# 「大宮学区への恩返し！」

大宮学区町内会連合会会長 吉田 久男さん

聞き手 山田 沙希

今回は大宮学区町内会連合会の吉田会長さんにお話を伺いました。現役時代は、大阪府で高校の社会科教師、そして野球部の監督・部長をされていたそうです。「本気で甲子園を目指していました。あの桑田、清原率いるPL学園とも対決したんですよ」。とても澁刺とした元気な会長さんです。

——毎日お忙しそうですが…

町内会連合会会長や学区社協の副会長、日本赤十字社共同募金の責任者に西賀茂会館の理事に財務担当…やり過ぎと周りに言われるくらいやっていますが、生まれ育った大宮学区への恩返しの気持ちで色々やらせていただいています。とりあえず、75歳までは頑張るつもりです。後継者を作るのがこれらの仕事を引き受けた者の責任だと思っています。

——町内会連合会会長さんのお仕事について教えてください



大宮学区は8ブロックに分かれています。それぞれのブロック代表者が集まる会議を、今までは年に二回程度しか開けていませんでしたが、三年前からは定例化して運営しています。例えば、この場所に信号が必要、道路が傷んでいる箇所がある等、地域の要求を把握して行政に申し入れたりしています。

また、皆さんに集めていただいた町内会費から加入世帯数の把握も行っています。やはり最近では加入率の低下が問題となっています。高齢世帯が役ができないなどの理由で脱退したり、新しく入ってこられた方はなかなか町内会に加入されなかったり。町内会加入のお勧めパンフレットを作ったりもしていますが、効果はなかなかです。

大宮学区はほとんど新しい家ができて人が入ってきているので、他の学区に比べると、高齢(65歳以上)人口の比率は低くなっていますが、新しく来た人が多い分地域に溶け込めていない方もたくさんいます。東日本大震災以降、地域の“きずな”がよく言われますが、いわゆる昔の“向こう三軒両隣”の顔の見える関係をどう作っていくのか、課題も大きいです。

私の口癖なのですが、あちこちで高齢の方に「毎日最低5人に声をかけましょう」と言っています。5人と会話しようと思えば、どうしても家から出る必要があるでしょう。例えばスーパーの店員さんとちょっと交わした挨拶でもOKです。家にこもって健康食品に頼るよりも、家の外に出て、大宮学区の素晴らしい環境と空気を吸うことのほうがずっと効果的だと思います。



——大宮学区の魅力を一言で言うと…?

やはり環境の良さが一番でしょう。だいたい住宅も多くなってきましたが、山も川も近く、田畑も残っていて、寺社も

あって近くには大学もある。こういう地域の環境の良さが、大宮の皆さんの気心知れた人柄を育てているのだと思います。学生から高齢者まで安心して暮らせる町だと思っています。

「生まれ育った学区への恩返し」。小さい頃から引越しの多かった私にとっては、とても新鮮で眩しい言葉でした。縁あって住みついた京都、吉田会長さんをはじめ魅力あふれる大先輩方と一緒に、微力ながら今後も大宮学区の一員として取り組んでいきたいと思いました。

## 日常生活圏域

### 居宅支援事業所の取り組み

#### 「ケアマネジャーたちも頑張っています！」

居宅支援事業所春うらら 坂本 敦子

紫竹、大宮、待鳳学区の居宅介護支援事業所では、定期的に皆で、学習会を開催しています。

今年度は、新人ケアマネジャーさんが悩んでいる事例を、皆で共有し、深めていく取り組みをしました。

そのうちの一例を紹介します。《独居で認知症を発症しておられる方のケース》パチンコ店に頻繁に通い、そこで知り合った若い男性に、「お母さん…」と、慕われ、ついお金を渡してしまう。

ご本人は認知症のため、身の回りのことや金銭の管理なども少しずつ難しくなっているような状況。良くない事と解ってはいても、自分を慕ってくれる男性についてお金を渡してしまう。

根本は、淋しさからくるものではないか、安心して過ごしてもらえるような援助をしたいと、ケアマネジャーは悩んでいました。

このケースについて出た意見は、「本人の自由な生活を無理に変えることはできない。男性との関係もいきなり否定せず、理解する気持ちも必要。」「金銭的なことは大事なことで、将来のことも含めて、一度本人と相談し、ある程度の決まりを作ってはどうか」「本人がどんな生活を送りたいのか。何に対して不安があるのか。寄り添いながら、じっくりと関わって行くことが大切。」などなど、たくさんの意見を聞くことができました。

普段、ケアマネジャー1人で、抱えているケースは、どうしても判断が独りよがりになったり、周りが見えなくなったりしがちです。皆でひとつの事例を深めていくことで、新しい気づき生まれ、違った視点でその人を捉えたりすることができます。

私たちの生活圏域では、事業所の枠を超えてこのように一緒に学んだり、相談し合ったりできるとも良い関係が築けています。年度末には、紫竹包括支援センター、各事業所のケアマネジャーたちが集まり、「ご苦労さま。これからはがんばろうね会」を開きました。今後も、皆で学ぶことを大切にし、この地域で頑張っていきたいと思っています。